

② 岩美郡の取組

1 研究主題及び研究について

岩美郡小学校体育研究会では、県の研究主題『『ともに学び 未来を創る 鳥取の体育』～運動の楽しさに浸り 豊かに関わり合いながら 課題を追究する子供～』をもとに活動した。岩美郡としても県と同じ方向性で研究、実践をつみ重ねていくことを確認し、令和2年度の研究を始めた。第1回部会では、器械領域の「マット運動」で実践していくことを確認し、研究の視点を具体的に、運動の楽しみ方(運動の特性)について話し合った。マット運動の特性を踏まえ、子どもたちが、運動の楽しさに浸るための学習内容・学習方法について検討をしてきた。

研究の視点として

①運動の楽しみ方(運動の特性)を活かした学び

技を身に付けたときに楽しさや喜び、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜び、全ての児童が技を身に付ける楽しさや喜びなどを味わうことができる運動の充実。

②より効果的な指導

事前アンケートの活用、系統性を意識した学習計画、単元構想の工夫(運動の特性を活かした学習計画)、練習の場や用具を工夫、ICTの効果的な活用、ふり返りの活用等

③『『する』『見る』『支える』『知る』の多様な関わり方と関連付けた学び

教師の意図的な言葉かけ、児童同士で動きを見合ったり、教え合ったりする場の設定、ポイントやコツの子どもたち同士の共有の工夫等

を進めていった。

11月20日の授業研究会では、岩美郡のみならず他郡市の先生方、県からも多くの先生方に参加していただいた。そのなかで、たくさんの意見をうかがうことができた。成果もあると同時に、課題も見つけることができた。指導と評価の一体化、児童の伝え合いの活発化、準教科書「わたしたちの体育」の活用等、本年度の授業研究会で得た課題について今後も詳しく考えていく必要がある。岩美郡小体研として今後も様々な取り組みを行うことで、体育学習の新たな可能性を探っていきたい。

2 具体的な取り組み

7月26日(金)	第1回部会 研究テーマ・事業計画・授業研究発表者の決定等
10月29日(木)	第2回部会 授業研究会事前検討
11月20日(金)	岩美郡小学校体育部研授業研究会
	第4学年 器械運動(マット運動)
	授業者 岩美町立岩美北小学校 坂本 啓一
	指導助言 鳥取県教育委員体育保健課 綱本 大介 指導主事

実践事例①【「わたしたちの体育」を活用した実践】

第4学年「マット運動」の実践を通して

岩美町立岩美北小学校 坂本啓一

1 はじめに

マット運動は、様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりして、技を身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、連続した技ができるようになったり、より美しい動きができるようになったりすることで達成感を味わうことができる運動である。技の習得にあたっては、低学年でのマットを使った運動遊びで身につけてきた動きや運動感覚をもとに、回転系や巧技系の技に取り組み、自己の能力に適した技ができるようにする運動である。そして、学習の取り組みとして、学習者が、自己の能力に適した課題を見つけ、工夫しながら活動に取り組むことで、友だちと共に技を教えあったり、協力したりして、友だちとの関わりを広げることのできる運動である。

2 実践の内容

(1) 単元構成の工夫

- ・技の系統性を意識しながら学習に取り組めるように、1年生から6年生までに学習する技を系統表（接転技群、翻転技群、平均立ち技群）にまとめ、体育館壁面に掲示した。6年間のつながりを明確にすることで、先を見通して学習に向かうことができると同時に、つまずきが見られたときに、学習をふりかえり、課題を明確にさせることができた。
- ・技の習得を3系統に分けて学習することで、基本的な技への取り組みに偏りが起こらないようにした。
- ・3系統に分けて学習をすることで、基本的な技と発展技とのつながりを意識した学習にした。
- ・技の組み合わせを意識して活動ができるよう、毎時間学習の終わりに組み合わせの練習ができる時間を確保した。

	1	2	3	4	5 (本時)	6	7
主なねらい	学習の仕方を理解しよう。	○いろいろなわざができるようになる。 き本のわざ、飛てんわざ ○わざを組み合わせよう。					わざの組み合わせを発表しよう。
核となる学習内容	・進め方、ねらい ・できる技の確認	・技の習得 (基本技 発展技) 【接転技群】 ・対話的な学習		・技の習得 (基本技 発展技) 【翻転技群】 ・対話的な学習		・技の習得 (基本技 発展技) 【平均立ち技群】 ・対話的な学習	技の組み合わせの発表
学習活動	オリエンテーション ・準備と片付け ・安全に学習するための確認 ・既習事項の確認と個人の達成度の把握	準備運動・やってみようの運動					組み合わせた技の発表
		活動① ・前転 ・やさしい畳での開きやく前転 ・後転 ・開きやく後転	活動② ・開きやく前転 ・しんしつ後転	活動① ・そく方とう立回転 ・首はね起き ・補助とう立ブリッジ	活動② ・ロンダート ・頭はね起き ・とう立ブリッジ	活動① ・かべとう立 ・頭とう立	
		技の組み合わせの練習					
	ふり 返 り						

(2) ICTの活用

①タブレット (iPad) の活用

- ・模範演技の動画によるイメージづくり。
- ・自分の試技を撮影し、ポイントの確認をする。
- ・遅延再生アプリを使って、自分の技の確認。

②プロジェクターを使った全体での情報共有

- ・よい動きをしている児童の動画をプロジェクターで投影し、学び合いを行った。
- ・児童同士の学び合いの中での気づきについて、児童の動画を投影させることでコツを共有した。



(3) 用具・場の設定

- ・児童の運動量を確保できる場の確保。
- ・目的・課題別に練習に取り組める場を設定した。

(4) 言語活動の充実

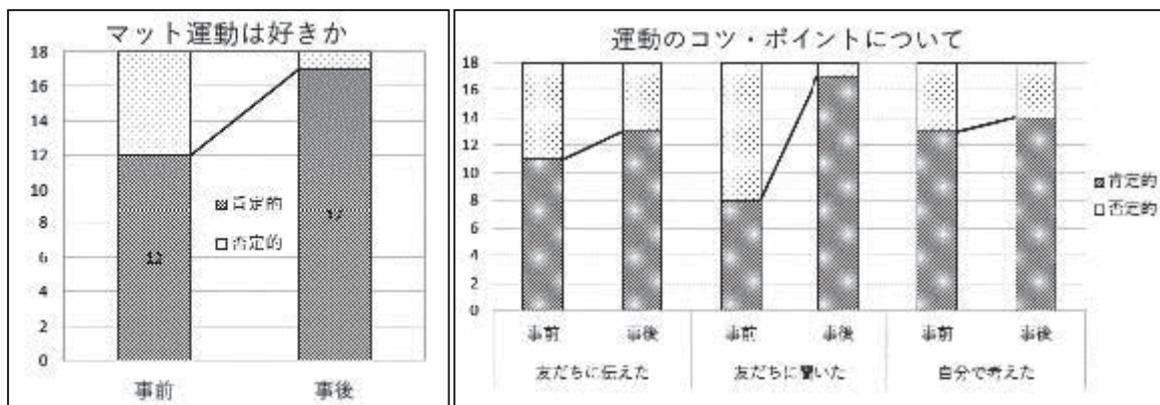
- ・必要に応じて、全体で技の動きを確認する中で、児童が見つけたポイント共有するようにした。
- ・技の動画を友達同士、タブレットで撮り合い、ポイントやコツの確認を随時できるようにした。
- ・「する」「みる」「支える」「知る」の4視点を児童に示し、学び合いや振り返りの中から見られたよい反応を掲示することで、良い関わりを広げるようにした。



3 成果と課題

(1) 成果

- 技の習得を3系統に分け、基本的な技への取り組みに偏りが起こらないように単元を構成したことで、全員がいろんな技に挑戦できた。
- 今回の学習では、単元構成やICTの活用など、様々な学びへの働きかけを行うことで、多くの児童が、達成感を持つことができた。その要因としては、友達同士の関わりへの意識や態度が向上したことが挙げられる。学び合いの成果が見られた。



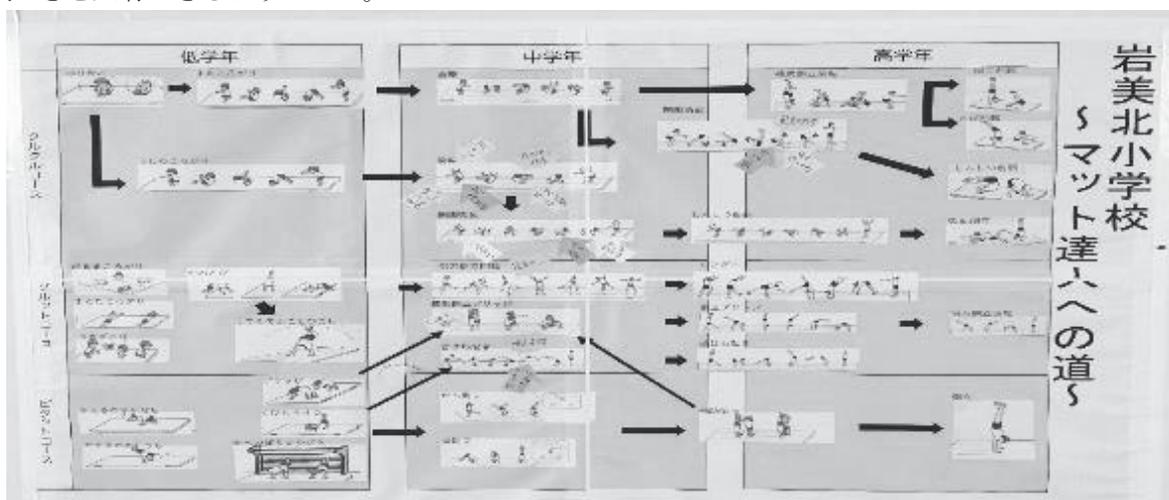
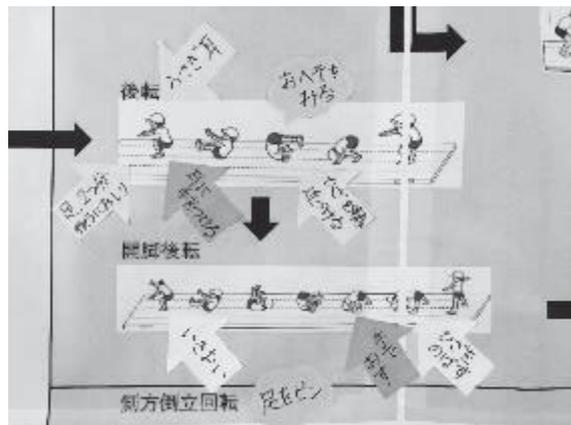
(2) 課題

- 学習指導要領解説には、知識及び技能について、一つ一つの技がどのような技なのかが明記されている。指導案作成に活用した上で、指導するポイントとしておさえるようにしていく。
- 今回の実践では、目標・めあて・評価が整理されておらず、ずれが見られた。目標、めあて、評価が教師の中で一致するように、計画の段階で整理しておく。

実践事例 準教科書の活用について

1 技のポイントやコツの確認

マット運動では、技の習得に向けて挑戦しようとする技がどんな技なのか、技のポイントはどこなのかを知り、イメージできる必要がある。そこで、本単元では、児童のイメージづくりの支援として、①準教科書の挿絵、②技の解説動画、③友達や教師の演技を考えた。①の準教科書について、児童が技の確認のときに自分の準教科書を見るのはもちろん、体育館壁面に掲示した技の系統表の中に挿絵を入れることで学習中確認できるようにした。また、ポイントとは別に、児童の気づいたコツを付箋を使って書き込むことにより、児童の気づきを共有できるようにした。



2 学習のふりかえり

本単元では、児童のふりかえりを準教科書を使って行った。毎時間学習が終わる毎に、その日の気づきを記入させた。学習のふりかえりの視点としては、「する」「みる」「支える」「知る」の4視点を意識させた。4視点を意識させることで、「できた」・「できなかった」というふりかえりではなく、「〇〇を□□したらできるようになった」とか、「〇〇さんが□□してくれたらできるようになった」など、学習の中での気づきが、より具体的なものになった。

